

2009

# ダイアグラムを利用したパターン表示方法の研究

Investigation of Diagram Pattern

AD10 鹿又 亘平  
指導教員 西野 隆司

## 1. 研究目的

情報社会と言われる現代、世の中は多くの情報に満ちあふれている。ダイアグラムは情報を幾何学モデルに置き換え、ある一定の規則に基づいて情報を提示する手段である。

本研究では情報社会化により、身近になったダイアグラムの表示方法に変化を与え、情報提示手段としてだけでなく、更なる可能性を探る。

## 2. 調査と分析

ダイアグラムは質的情報から量的情報を取り出し質的表現を行う事が可能で、抽象画に似た表現の方法が可能だ。またダイアグラムには数値を形に置き換える力があり、そのため情報を分りやすく人に伝える事が可能だと分った。

現在一般的なダイアグラムは、数値の直接的な再現にとどまっている状態である。

数値的な情報を苦手意識を持つ人が多いが、ダイアグラムを利用する事で親しみやすい形を提案できるのでは無いかと考えた。

## 3. コンセプトの立案

「情報を作る模様」

ダイアグラムを利用する事で、多くの人々に数値的情報の面白さを理解してもらう模様の提案をする。一方で、出来上がる形は理系の人から見ても納得するような実相性を保たせる。

## 4. デザイン展開

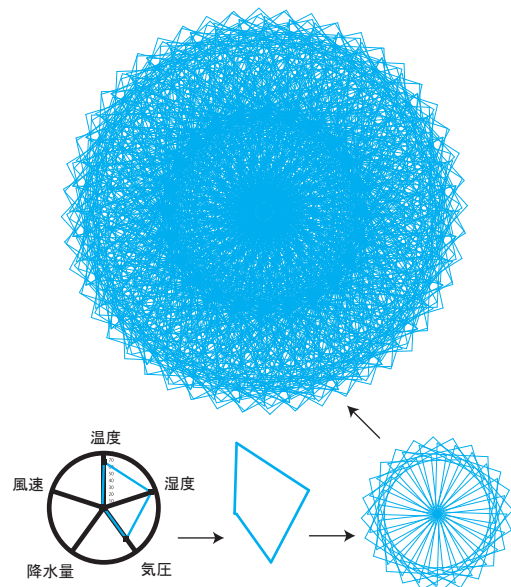
パターン画を制作するに当たって、形の面白さを最優先で考えていたが、個人の主観だけでパターン配置を行うと情報が誇張される可能性があり、ダイアグラムとしての意義を失ってしまうことに気づいた。そこで、モチーフをイスラムの伝統模様であるアラベスクにし、ルールを定める事で形の面白さと、情報の実相性を表現する事を試みた。

ダイアグラムは、パターンの基礎となる図形をそのまま取り出しやすいレーダーチャートを利用し、回転パターンや、リフレクトを複数回かける事で幾何学模様のベースを作り、アラベスクを再現した。

今回利用した情報源は天気（温度、湿度、気圧

など）で、多くの人になじみが深いことと、アメダスによる情報量の多さ、正確さなどから、最もパターン画を作るのに適していると考えたからである。また、天気をベースに情報を取る事でその他多くの情報に絡めたアラベスクを作成する事が可能になった。

## 5. 完成図



## 6. 結論

出来上がったダイアグラムを数学が苦手な人、得意な人、両者に見せたところ、どちらの人が見ても綺麗だという意見を頂いた。また情報源を明かすと、その形に対して親近感が湧くと言ってくれた人もいた。理数系の人からはラフ段階から、ただの情報の羅列にならないようにしてほしいと言われていたのに対し、今回完成した物についてはルールを設定した事によってより実相性が出たと考えられる。また、パターン画にする事で情報の特徴を最大限表現出来るようになった。

## 7. 参考文献

- 『プロのデザインルール ダイアグラム編—基礎とケーススタディ』, ピエ・ブックス, 2009
- アンドリュウ・ヴァンデ・モーレ “information aesthetics”, <http://infosthetics.com/>, (参照 2010-8-10)